

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：37111
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2018～2021
 課題番号：18K10563
 研究課題名(和文) 認知症ワーキングケアラーのエンパワメントを高める教育支援プログラムの開発と検証

研究課題名(英文) Development and verification of an educational support program to empower working generation Japanese family caregivers who care for community-dwelling people with dementia

研究代表者
 坂梨 左織 (SAKANASHI, SAYORI)
 福岡大学・医学部・講師

研究者番号：20569644

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、認知症ワーキングケアラーのエンパワメントを高める教育支援プログラムを構築することを目的に、認知症の人を介護する働き盛り世代家族介護者の学習課題と介護未経験者の学習課題の特徴を明らかにした。家族介護者18名から抽出された4つのカテゴリーと20のサブカテゴリーの学習課題から介護者の準備不足が明らかになり、介護開始前の学習支援確立の必要性が見いだされた。また、介護未経験者115名の学習課題に対する意識・行動に関する調査から、年齢や性別、役割による学習課題の特性とニーズを明らかにし、介護開始前の働き盛り世代を対象とした学習支援モデルを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国の介護離職者数は年間10万人にも及び、特に認知症介護との両立は極めて困難なことが指摘されている。本研究は、認知症の人を介護する働き盛り世代家族介護者の学習課題を抽出し、介護の準備不足と介護者のメンタルヘルス不調が離職に繋がりがやすい実態を明らかにした。さらに、働き盛り世代介護未経験者の学習課題の特徴を明らかにした。本研究は、社会的損失の大きい介護離職の解決に向け、当事者から得られたデータに基づいて、家族介護者のエンパワメントに向けた支援確立の必要性を見出すことができたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop an educational support program to empower working Japanese family caregivers who care for community-dwelling people with dementia (PwD). First, we investigated and described the learning theme experienced by the family caregivers of PwD. Second, we examined the learning theme characteristics of those who have not yet experienced long-term care for PwD. The interview data revealed four main categories and 20 subcategories related to learning theme. This result suggested the lack of preparation among family caregivers and the need for appropriate support before the start of long-term care. Next, the questionnaires were mailed to 115 working individuals who had no experience with long-term care. Participants completed questionnaires regarding their learning theme awareness and behavior. We explained the characteristics and needs regarding the learning theme. Thus, we proposed a learning support model for these working generation individuals.

研究分野：高齢看護学、家族看護学

キーワード：認知症 働き盛り 学習課題 エンパワメント

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

世界の認知症数は約 5,000 万人と推定され、2050 年には 3 倍以上の数に増加すると予測されていることから公衆衛生上の重大な問題である。認知症の行動・心理症状 (BPSD) は、人との関わりや日常生活行動に影響をもたらす、その現れ方もさまざまである。そのため、家族介護者に心理・経済的な影響を及ぼし (Moreno et al., 2015)、多大な負担を及ぼす (Chiao et al., 2015)。さらに、現在の COVID-19 危機的状況のなか、特に認知症の人は不安、怒り、ストレス、興奮、引きこもり等が増す可能性があり、介護者への支援の重要性が報告されている (Alzheimer's Disease International, 2020)。

日本は伝統的に家族が介護を担う傾向があり、働き盛り世代の介護者の過剰な負担が自身の精神面に与える影響が大きいことが指摘されている (Juratovac, et al., 2014)。特に、仕事と認知症介護との両立は極めて困難で、離職による社会からの孤立は介護放棄や高齢者虐待など社会的な問題へも発展することが報告されている (Leung, et al., 2017)。

仕事と介護の両立に関する先行研究は、認知症の人の BPSD や家族介護者の介護負担の大きさ、介護に対する否定的な評価が仕事にネガティブな影響をもたらすことが報告されている (Sakka, 2019)。一方、Baharudin (2019) は、介護者が事前に計画を立てることで、BPSD と介護者の負担との関係にプラスの影響を与えたと報告している。したがって、仕事と介護を両立させるための働き盛り世代認知症介護者の介護上の学習課題を明確にし、彼らに必要な支援を構築する必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、認知症ワーキングケアラーのエンパワーメントを高める教育支援プログラムを構築することである。研究 1) では、認知症の人を介護する働き盛り世代家族介護者の経験から学習課題を明らかにすることを目的とした。研究 1) の結果から、介護開始前の学習支援確立の必要性が見いだされたため、研究 2) では、介護未経験者の学習課題の特徴を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

研究 1) 働き盛り世代の認知症家族介護者の介護上の学習課題について

調査期間：2019 年 1 月～2020 年 2 月

対象者：日本の 2 つの医療施設と 2 つの家族会、10 の県主催の相談会場に参加した 60 歳以下の認知症の人の家族介護者。対象者の選定は、理論的サンプリング (Sandelowski, 2000) を使用して、より広範囲の介護者 (男性と女性、夫と妻、息子と娘など)、介護期間、認知症の診断の種類を選定した。また、選定する対象者グループへの長期的な参加と注意深い観察は信頼できる情報を生み出すと考えられている (Flick, 2011)。研究者は、インタビュー前に参加者との関係性を築くために、家族会や相談会場に継続的かつ長期的に参加した。

調査方法：半構成的インタビュー

調査内容：家族介護者に属性として性別、年齢、介護中の雇用状況、認知症の人との関係、家族の同居状況、認知症の種類、介護の期間、介護度を尋ねた。学習課題を明らかにするために、これまでの介護の経過、生活、仕事、困っていること、気を付けていることについて尋ねた。

分析方法：The qualitative content analysis process (Elo & Kyngäs, 2007) の手法を参考とし、質的記述的に分析した。

研究 2) 介護未経験者の学習課題の特徴について

調査期間：2021 年 3 月～4 月

対象者：1 企業の 20～60 歳未満の職員のうち介護未経験者。

調査方法：自記式質問紙調査

調査内容：対象者に属性として、性別、年齢、雇用状況、介護を助けてくれる人の有無、介護の相談に乗ってくれる人の有無、家族の中の役割、介護予定者との続柄を尋ねた。研究 1) で明らかになった「認知症介護における学習課題」に対する意識・行動について質問紙を作成し、4 段階調査を行った。さらに、介護に対する学習ニーズについて自由記述で回答を求めた。

分析方法：基本属性と質問項目の平均値の比較は記述統計、属性間の比較は Mann-Whitney の U 検定を行った。自由記述は質的に分析した。

研究 1) 2) とともに、福岡大学医に関する倫理委員会の承認を得た。施設の代表者に調査目的を説明し同意を得た。研究対象者に書面で説明し同意を得た。

4. 研究成果

研究 1)

対象者は 18 名の認知症の人の家族介護者で、平均年齢は 52.0 歳 (31～60 歳の範囲) だった。

14 名が女性、8 名がフルタイム労働者、12 名が要介護者の娘、11 名がアルツハイマー型認知症の人の介護を行い、8 名が 10 年を超える介護期間であった。

分析の結果、20 のサブカテゴリー、4 つのカテゴリー：(a) 介護リテラシーの向上、(b) 認知症と介護に関するネガティブなイメージの払拭、(c) 周囲を巻き込んでワンチームで介護に取り組む、(d) 社会の一員としての積極的に役割を担う、で示される学習課題が明らかになった。

本結果から、「介護リテラシーの向上」と「認知症や介護に関するネガティブなイメージの払拭」の間に関連がある可能性が示唆された。また、「介護リテラシーの向上」は、認知症ケアの優れた実践と認知症ケアの本質の理解につながる可能性がある。したがって、明らかになった学習課題は、日本の地域在住の認知症の人の家族介護者のエンパワーメントに影響を与える重要な要因であると推測された。さらに、働き盛り世代家族介護者の介護に向けた準備不足が明らかになった。介護開始前に介護リテラシーを向上させることによって、他の学習課題にポジティブな影響を与える可能性があり、介護開始前の学習支援確立の必要性が見いだされた。

研究 2)

対象者 115 名の平均年齢は 42.8 ± 11.7 歳で、女性が 76.5%、常勤が 56.5% で、24.3% に介護を助けてくれる家族がおらず、13.9% に介護について相談ができる家族がいなかった。学習課題の平均値が高い順に、「認知症は誰もがなりうる病気の一つである (2.7)」、「認知症の治療や経過は人によって異なる (2.64)」、「認知症の人には適切な治療や関わり方が有効である (2.61)」、低い順に「私には信頼できる専門職者がいる」、「事態の解決のために自ら認知症や介護(ケア)について学んでいる」、「感情をコントロールする方法を身に着けている」であった。属性間の平均値の比較では、項目「私は働き盛り世代として、社会で活躍する責任がある」で 30 歳未満のほうが 30 歳以上と比較して有意に高かった。項目「家族と介護(ケア)状況について共有し客観的意見をもらっている」で女性のほうが男性と比較して有意に高かった。項目「介護福祉サービス体制をよくするために家族としての関わり方が大事である」で介護を助けてくれる家族がいるほうがいない者に比較して有意に高かった。項目「認知症の治療や経過は人によって異なる」、「介護を始める前から、介護(ケア)について他人事ではなく自分のこととして考えている」で主介護者のほうがその他の役割に比較して有意に高かった。ニーズの内容は、公的制度やサービス、認知症の人への関わり方、感情コントロール方法、仕事を継続できる方法に加え、認知症の人が自己決定するための支援などがあった。ニーズの方法は、動画配信やパンフレット、市民講座、体験などがあった。

対象となった働き盛り世代の介護未経験者は、認知症に関する知識をある程度獲得していたが、具体的方策のための意識や行動には至っていない可能性があった。また、女性のほうが他の家族員へ相談したり、意見をもらったりする意識が高い傾向にあり、先行研究で示された介護者の課題と同様であった。30 歳未満の介護未経験者は、介護よりも社会的役割の遂行に意識が向く傾向にあり、さらに、将来介護を担う可能性がある者は介護への意識を高く持っている可能性が示された。働き盛り世代の介護未経験者は、認知症当事者へも目を向け、自身の関わり方が重要なことを理解しており、学習支援の動機づけとなることが示唆された。

以上、研究 1) と研究 2) から、働き盛り世代介護未経験者の年齢や性別、役割に応じた認知症介護に関する学習支援の必要性とその内容が明らかになり、学習支援モデルとして提案できる。

< 引用文献 >

- Alzheimer's Disease International. (2020). Advice and support during COVID-19. BAME communities, people living with dementia and carers. <https://www.alzint.org/resource/advice-and-support-during-covid-19-bame-communities-people-living-with-dementia-and-carers/>
- Baharudin, A. D., Din, N. C., Subramania, P., & Razali, R. (2019). The associations between behavioral-psychological symptoms of dementia (BPSD) and coping strategy, burden of care and personality style among low-income caregivers of patients with dementia. *BMC Public Health*, 19(4), 447.
- Chiao, C. Y., Wu, H. S., & Hsiao, C. Y. (2015). Caregiver burden for informal caregivers of patients with dementia: A systematic review. *International Nursing Review*, 62(3), 340–350.
- Flick, U. (2011). *Qualitative social research* (H. Oda, Trans.). Shunjusha. (Original work published 2002)
- Juratovac, E., & Zauszniewski, J. A. (2014). Full-time employed and a family caregiver: A profile of women's workload, effort, and health. *Womens Health Issues*, 24(2), e187–e196.
- Leung, D. Y., Lo, S. K., Leung, A. Y., Lou, V. W., Chong, A. M., Kwan, J. S., Chan, W. C., & Chi, I. (2017). Prevalence and correlates of abuse screening items among community-dwelling Hong Kong Chinese older adults. *Geriatrics & Gerontology International*, 17(1), 150–160.
- Moreno, J. A., Nicholls, E., Ojeda, N., De los Reyes-Aragón, C. J., Rivera, D., & Arango-Lasprilla, J. C. (2015). Caregiving in dementia and its impact on psychological functioning and health-related quality of life: Findings from a Colombian sample. *Journal of Cross-Cultural Gerontology*, 30(4), 393–408.
- Sakka, M., Goto, J., Kita, S., Sato, I., Soejima, T., & Kamibepu, K. (2019). Associations among behavioral and psychological symptoms of dementia, care burden, and family-to-work conflict of employed family caregivers. *Geriatrics & Gerontology International*, 19(1), 51–55.

Sandelowski, M. (2000). Whatever happened to qualitative description? *Research in Nursing & Health*, 23(4), 334–340. [https://doi.org/10.1002/1098-240x\(200008\)23:4<334::aid-nur9>3.0.co;2-g](https://doi.org/10.1002/1098-240x(200008)23:4<334::aid-nur9>3.0.co;2-g)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 坂梨左織, 藤田君支
2. 発表標題 認知症ワーキングケアラーの介護上の学習課題
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂梨左織, 藤田君支
2. 発表標題 認知症ワーキングケアラーのエンパワーメントと関連要素の特徴
3. 学会等名 日本看護研究学会第25回九州・沖縄地方会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂梨左織, 藤田君支
2. 発表標題 働き盛り世代の「認知症介護における学習課題」に関する実態調査
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂梨左織, 西尾美登里, 合馬慎二
2. 発表標題 働き盛り世代の「認知症介護における学習課題」とその関連要因
3. 学会等名 第23回日本認知症ケア学会大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	合馬 慎二 (OUMA Shinzi) (00465717)	福岡大学・医学部・講師 (37111)	
研究分担者	西尾 美登里 (NISHIO Midori) (20761472)	日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・講師 (37123)	
研究分担者	藤田 君支 (FUJITA Kimie) (80315209)	九州大学・医学研究院・教授 (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------